

平成27年度 施策評価表

作成年月日：平成28年9月2日

	課・グループ名	消防南幌支署
施策名 ①－b 地域医療の確保（救急体制の確保） 4－1－①－b		
1. 施策の現状分析及び展開方向		
政策・施策の体系	大項目	中項目
	4. 健康的で自立した暮らしを支える保健福祉と医療の整ったまちづくり	(1) 充実した医療環境の確立
①施策のねらいと展開方向	①－b 地域医療の確保（救急体制の確保）	
②施策の現状と課題	現 状	課 題
	<ul style="list-style-type: none"> ●本町では、栗山町、長沼町、由仁町の四町で一部事務組合を組織し救急業務を行っています。高齢化に伴い急病による救急要請が増加しています。 ●傷病者の搬送は町立病院を基本としていますが、傷病の状態によっては、近隣市町の中核医療機関への搬送も行っています。 ●救急活動は、救急救命士8名を含む18名で行っています。 ●町立病院は救急告示指定病院となっており、休日・夜間を問わず対応しているものの、診療科目が限られているため、十分な救急体制が整っていない状況にあります。 ●救命救急センターへの搬送が必要な重症患者に対し、ドクターヘリを要請しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ●今後、認定救急救命士等も含め生涯にわたり教育を行い、救急体制の充実強化を図る必要があります。 ●救急救命士の認定項目が追加されたため、新たな認定取得者を養成する必要があります。（認定項目には、気管挿管、薬剤投与、ビデオ挿管、拡大2行為の4項目があります） ●救急救命士が救急自動車で特定行為をするために、町立病院の医師・看護師等との連携体制が必要です。 ●重症患者を迅速に病態にあった医療機関への搬送を行うため、救急隊と町立病院及び救命救急センターとの連携強化を図る必要があります。 ●救急件数の増加、利用者の高齢化、更に救急救命処置拡大により、高度な知識を修得した救急救命士の育成が必要です。

2. まちづくりの成果指標の設定、達成状況								
① 成果指標	意図、現状と課題のキーワード			まちづくりの成果指標名		数値化		
	救急救命士の処置内容が拡大され、それらの処置を行える認定救急救命士の養成数を成果指標として設定している。 平成26年度までは気管挿管認定と薬剤投与の2項目の認定を成果指標としていたが、平成27年度からはビデオ挿管と拡大2行為（ブドウ糖投与・重症者に対する輸液）が追加され、合計4項目の認定を成果指標（認定4項目各8名、合計32名）としている。			成果指標（総合計画・施策評価）	○	可能		
				気管挿管・薬剤投与・ビデオ挿管・拡大2行為の認定救命士数		○	不可能	
				代替指標 ※成果指標がない場合			○	未計測
								○
					○	可能		
						○	不可能	
※施策目的(施策の意図)の達成状況を把握するための指標を記載しています。								
②指標データ	単位	過年度実績			評価年度	目標年度	達成率増減の理由	
		H24	H25	H26	H27	H28		
目 標	人	14	14	14	32	32	平成27年度より成果指標に気管挿管と薬剤投与のほか、ビデオ挿管、拡大2行為の2項目を追加した為、達成率が減少している。	
実 績	人	11	12	13	15			
達成率	%	78.6	85.7	92.9	46.9			
評価視点		評価結果				理由、課題・問題点		
③施策の達成状況		A 計画目標に向けて順調に推移（目標達成は十分に可能である）				施策の達成度	認定項目にビデオ挿管と拡大2行為の2項目が追加されたことにより、全道の救急救命士が受講希望するため講習機関の受入枠が不足している。南幌支署でも目標達成に向け受講・実習の申請をしているが計画通りには進んでいない。 長期的な計画の中で関係機関と連携して目標達成を目指す。	
		B 計画目標に向けて概ね順調に推移（目標達成は可能である）						
		C 計画目標に向けての進捗はやや遅れている（目標達成が遅れる可能性がある）				C		
		D 計画目標に向けての進捗は遅れている（目標達成は難しい）						

3. 施策を構成する事務事業の評価

【種類】 事務事業の種類	【必要性】 事務事業の必要性	【妥当性】 町の関与の妥当性
(1) 自主事業(自主)	(1) 町が保障する町民生活の最低水準に関わるもの	(1) 町が実施主体となり、企業等が補完的な役割を行う事業
(2) 施設管理事業(施管)	(2) (1)を超えるサービスで町民ニーズが大きいと考えられるもの	(2) 実施主体は企業や町民団体等が適当であり、市が補完的な役割を担う事業
(3) 経常的事務(経常)	(3) (1)を超えるサービスで町民ニーズが小さいと考えられるもの	(3) 企業や町民団体等による実施が妥当な事業
(4) ハード事業(ハード)		

①事務事業評価結果

事業番号	事務事業名	種類	所管課名	成果指標	評価年度(H27)		事務事業の内容	必要性	妥当性	事務事業評価結果(方向性)	事業費(千円)		施策への貢献度 <高い> <普通> <低い>
					目標	単位					H27実績	H28予算	
					実績								
1	救急救命士拡大処置認定取得事業	(1)	消防南幌支署	①薬剤認定 ②挿管認定 ③2行為認定 ④ビデオ認定	①8	人	・消防学校での講習及び試験、病院での実習により認定取得。 (救急救命士資格者の拡大処置【薬剤投与・気管挿管・ビデオ挿管・拡大2行為】の認定の取得。)	Ⅱ	Ⅰ	1 現状のまま継続	267	高い	
					②8 ③8 ④8						①8 ②6 ③1 ④0		488

年度別施策全体の事業費合計(千円)

H27事業費 267

H28予算 488

②H28に実施した新規事務事業

	実施計画	実施主体	事務事業名	事務事業の内容	H28予算(千円)
1					
2					
3					

評価視点	評価結果	理由・問題点
③事務事業の妥当性 (手段は妥当か)	A 効果的な事業構成である。 (現状のまま継続する)	・平成16年4月から気管挿管、平成18年4月から薬剤投与が救急救命士に特定行為として認められ、平成27年度以降はビデオ挿管と拡大2行為の認定取得も加えて、その拡大処置における認定救命士の養成に努めています。認定項目の特定行為は心肺停止前及び心肺停止状態の患者を救命するのに有効な手段の一つとされ、この行為を行う場合の医師の指示体制も構築されています。また、MC(メディカルコントロール)により処置の検証も行われ、病院との連携強化も成されています。高齢化による救急件数の増加、重篤疾患の増加等により認定救急救命士及び救急救命士の養成・再教育は必要な事業であると考えています。
	B 概ね効果的な構成である。 (一部見直し等の余地がある)	
	C あまり効果的な事業構成はない。 (見直し等の余地が大きい)	
	D 事業構成に問題がある。 (抜本的な見直し等が必要である)	
	事業構成の妥当性	A

4. 今後の方向性 ※外部評価(行政評価委員会)

①総合評価 (今後の展開、事業の見直し等) 委員会評価	特に課題とすべき指摘事項はない。	事業の方向性	事業番号					平成29年度以降の予算の方向性	
			A						
			B						拡大
			C	1					維持
			D						縮小